

第85回創元展(第56回静岡巡回展)あいさつ

この度は、第85回創元展(第56回静岡巡回展)のご盛会を心からお喜び申し上げます。創元会の皆さまが、「誠実・情熱・知性」に立脚され、新しい絵画の創造を目指し、真摯に取り組んでこられた歩みに深く敬意を表します。

2026(令和8)年は、私たちの郷土が誇る偉人、高柳健次郎博士が世界で初めて、ブラウン管による「イ」の字の受像に成功してから100年を迎える年です。

その高柳博士が残された言葉に「10年先、20年先を目指せ」というものがあります。人口減少による地域や産業の活力低下、社会経済環境の変化、そして多様化・複雑化する課題など、本市を取り巻く環境は大きく変わり続けていますが、時代の変化に的確に対応していかなければなりません。高柳博士の言葉は、不確実な未来に挑戦し続ける勇気と創造性を鼓舞してくれる私たちへの金言です。未来を見据え、就任以来掲げてきた「浜松から地方創生」の実現に向けて、まち・ひと・しごとの創生に一体的かつ総合的に取り組んでまいります。

このような取組を推進している本市にとって、全国規模の歴史ある展覧会が本年も浜松市において開催されますことは、大いに意義深いものであります。

本展覧会にご出品されました創造性に富んだ多彩な表現と個性豊かな作品が、多くの皆様に感動と活力を与え、これからの浜松市の文化振興の担い手として活躍されることと期待しております。

結びに、展覧会のご成功と創元会のますますのご発展を祈念申し上げ、あいさつとさせていただきます。

浜松市長 中 野 祐 介

「静岡巡回展に寄せて」

85周年記念創元展静岡巡回展のご開催、誠にありがとうございます。

国立新美術館での東京本展は、初日にちょうど桜が満開を迎え、85周年の記念展に相応しい華やかな幕開けとなりました。会期当初の二、三日はあいにくの雨模様となり来場者数を案じておりましたが、予想を上回る多くの皆様にご来場いただきました。とりわけ海外からのお客様が例年以上に多かったことに驚かされました。

今回のメイン企画である役員による特別企画展は、それぞれの作家の思いと表現が結集した、誠に充実した空間となりました。描き続ける者として、自らの作品に込めた思いを語る場を設けたことは大変意義深く、来場者に新たな視点と刺激をもたらしたのみならず、会としても今後へとつながる貴重な試みであったと確信しております。いつの日か、会場全体がこのような熱意と創造性に満ちた空間になることを願ってやみません。

なお、特別企画展は残念ながら巡回いたしません。その分、静岡の皆様による力強く個性豊かな作品群が、本巡回展を大いに彩ってくださるものと期待しております。

また、日頃より多大なるご支援を賜っております浜松市長様をはじめ、関係各位に深く御礼申し上げます。本巡回展が静岡県の美術文化の更なる向上と発展に寄与することを、心より願っております。

一般社団法人創元会長 小 川 尊 一
理 事